

枚方京田辺環境施設組合可燃ごみ広域処理施設整備事業に係る環境影響評価に対する主な住民等意見の概要

■ 方法書に対する意見

項目	住民等意見（説明会、意見募集） ※下線は、説明会で提出された意見	事業者見解（応答）
大気質	① <u>住民への影響に配慮して煙突高さを100mとしたということだが、煙突を高くすれば、汚染が広がるという問題が起きるのではないか。また、配慮書での最大着地点は、対象事業実施区域から何キロか。</u>	配慮書では、最大着地濃度想定地点は、いずれの案でも新施設から南南東700m以内の場所である。方法書は、配慮書と比較した案から一つの事業計画とし、その計画での予測・評価を行うための調査手法等を記したものである。今後現地調査を行い、準備書において煙突高さ100mでの予測・評価を示すこととなる。
大気質	② <u>風向や水の流れについては、東部清掃工場のアセスメントの際にも、ほとんどが京田辺市の方向であるという結果が調査報告の中に示されている。また、東部清掃工場のアセスでは、4キロ圏内で調査をしている。にもかかわらず、今回は非常に狭い範囲での調査となっている。調査範囲の拡大を希望する。</u>	環境省の廃棄物処理施設生活環境影響調査指針では、調査対象地域を最大着地濃度出現予測距離の概ね2倍とされており、東部清掃工場の最大着地濃度出現距離の0.8kmの2倍の1.6kmを参考に、1.6kmを調査地域に設定した。
大気質	③ <u>東部清掃工場と当該事業の2本の煙突が環境に及ぼす複合的な影響について知りたい。</u>	今後予定している環境調査は、東部清掃工場と甘南備園焼却施設が稼働している状況で行う予定で、その値をバックグラウンドとし、新しい施設を建てたときの影響を追加して予測・評価することとしている。
大気質	④ <u>地形的には、京田辺市が低く、枚方市が高くなっており、また、風は京田辺市に向かって常に吹いている。その中で焼却施設を建設して問題ないと考えているのか。</u>	大気質及び気象について、今後、施設周辺で現地調査を行い、その結果をもとに大気質の予測・評価の結果を準備書に示す。
大気質	⑤ <u>大気質の調査地点について、焼却施設から北西の枚方市側の地域に地点が足りないように感じる。</u>	北西の枚方市側の地域では、道路沿道の大気質調査地点として、氷室低区配水場を設けており、その地点での大気質及び気象の調査結果から補足を行うことも可能だと考える。
大気質	⑥ <u>甘南備園焼却施設の周辺で、男女の出生率の調査を独自に行ったところ、施設の煙突から1km以内で女の子が多い地域が多い結果となった。特に、南山では、風向きの影響で6割の子が女の子という結果となった。今回の施設の煙突が甘南備園より高くなるのであれば、調査範囲を南山の方まで広げていただきたい。</u>	大気質の調査地点については、京都府の環境影響評価についての技術指針に基づき、配慮書で示した風の状況も加味したうえで、最大着地濃度地点の概ね2倍の距離を調査地域としている。また、常時監視のデータ等を用いて広域の予測を行っていくことも可能である。
大気質	⑦ <u>同志社大学付近の大気質濃度が高くなることについて、住民に知らされていない。</u>	配慮書では、既存資料から求めた大気質の予測結果を示しており、住民等からの意見もいただいた。今後は、現地調査結果から面的に予測・評価を行い、準備書でその結果についてお示しする。
大気質	⑧ <u>国が決められている各種基準を満足していれば、環境に影響はないという判断ではなく、それを大きく下回るような基準を設けるべき。</u>	本施設については、東部清掃工場と同様に、排出ガスについて国の基準等よりも厳しい値を自主規制値として設定する。

■ 配慮書時の意見

住民等意見	事業者見解
① 枚方市東部清掃工場と同程度の内容を下回ることをしないようにすべきであり、将来の環境政策を踏まえると、さらに高い環境基準値のクリアを目指すべき。	（煙突の高さに関する意見） 煙突の高さ 100mと 59mのいずれについても、重大な影響は生じることはないと予測されたが、100mの方が、環境影響の観点からは優位であることから、100mを採用。 また、煙突の高さが十分高くない場合には、煙突ダウンウォッシュ（ダウンドラフト）現象が発生しやすいとも言われているため、100mの方が望ましいと考えている。
② 煙突高さと同程度の内容を下回ることをしないようにすべきであり、将来の環境政策を踏まえると、さらに高い環境基準値のクリアを目指すべき。	② 煙突高さと同程度の内容を下回ることをしないようにすべきであり、将来の環境政策を踏まえると、さらに高い環境基準値のクリアを目指すべき。
③ 煙突を 100m にすると煙による影響範囲が広がってしまうのか。煙突から出る煙の値が、いずれも環境基準よりも小さくなるようなら、影響範囲が小さいほうが良いように思う。	③ 煙突を 100m にすると煙による影響範囲が広がってしまうのか。煙突から出る煙の値が、いずれも環境基準よりも小さくなるようなら、影響範囲が小さいほうが良いように思う。
④ 大気質の予測は、事業実施地とはまったく別の位置である京田辺地域観測所のデータを用いておいて。事業予定地ではかるべき。	④ 大気質の予測は、事業実施地とはまったく別の位置である京田辺地域観測所のデータを用いておいて。事業予定地ではかるべき。
	方法書以降は、事業実施想定区域における気象状況等の詳細な調査を行った上で、詳細な影響予測を改めて実施し、十分な影響の検証及び必要な環境保全措置の検討を行う。

項目	住民等意見（説明会、意見募集） ※下線は、説明会で提出された意見	事業者見解（応答）
大気質	⑨ 従来からのごみに加えて枚方市分のごみを燃やして京田辺市側に排気ガスを排出すれば、いくら厳しい値を設定しても（環境への負荷は）絶対に0にはならない。この点を市民に十分説明する必要がある。	一例としてダイオキシン類は、現甘南備園焼却施設の法令基準（自主基準）5ng-TEQ/m ³ Nに対し、本事業では自主基準値0.05 ng-TEQ/m ³ Nを設定する。また、本施設の供用開始に伴い、現甘南備園焼却施設は稼働を停止する。こうしたことから、全体として現在より環境への負荷が小さくなるものと考えている。準備書では、詳細な予測及び評価結果を示す。
大気質	⑩ 影響が想定される範囲を示しているが、本当か。同志社大学のあたりが一番濃度が高いのではないか。	煙突排出ガスによる大気質の影響が想定される範囲については、計画段階環境配慮書で既存文献から予測した結果である。今後、現況調査、予測及び評価を行い、その結果を準備書で示す。
騒音・振動	⑪ 騒音、振動も含めて大変こわいと思っている。	<p>工事中の建設機械及び工事用車両並びに供用後の施設稼働及び施設利用車両については、低騒音・低振動機器の導入や車両の分散等に努める。</p> <p>なお、対象事業実施区域周辺及び主要走行ルートにおいて、現況調査、予測及び評価を行い、その結果を準備書でお示しする。</p>
悪臭	特に意見なし	
水質	⑫ <u>ため池には、いろんなものが溜まるため、周辺のため池でのダイオキシン類の調査も行っていたきたい。</u>	意見として、お聞きし検討する。
水質	⑬ <u>プラント内の水を循環利用するとあるが、排水は供用時にどのように流れるのか。周辺の河川の影響は考えないのか。</u>	施設内で利用した水については、循環利用を行い、余剰分は下水道放流する計画であり、河川への放流はしない。敷地内に降る雨水については、天津神川へ流れるため、工事の影響について評価を行う。
水質	⑭ 河川については、当然、高いところから低いところに流れるのはあたりまえで、この位置にごみ焼却場をつくれれば水はすべて下流に流れる。あまりにもひどい話だと思う。	<p>本事業のプラント排水については、排水処理後、循環利用を行い余剰なものについてのみ下水道の排除基準を満たした上で下水道へ放流する計画としている。</p> <p>また、雨水については、プラント排水等、可燃ごみを処理する過程で発生する排水とは分離し、河川へ放流する。</p> <p>このことから、汚水が河川に流出することはない。</p>
地下水	⑮ <u>昭和45年から47年までに大阪府が今の東部清掃工場の下に廃棄物及び灰を埋めた。それに関するボーリング調査等のなかで、水質調査はSSのみであった。このため、本アセスにて地下水の調査も行っていただきたい。</u>	プラント排水は、下水道に放流する計画としており、地下浸透もさせない計画である。本事業における水質の影響の観点からは、雨水の排水による影響のみが考えられる。このため、地下水の調査は予定していない。
地下水	⑯ <u>造成工事に伴う地下水への影響はないのか。</u>	工事を行う中で地下水がなくなる等の問題が出てくれば、対策を講じる必要がある。

住民等意見	事業者見解
⑤ 関係車両の通行ルートはどうなるのか。	国道 307 号を走行する計画であり、その先においては、車両台数は分散され则认为られることから、方法書以降の手續においては、事業による負荷が大きくなる国道 307 号を対象に調査、予想及び評価を実施する。

項目	住民等意見（説明会、意見募集） ※下線は、説明会で提出された意見	事業者見解（応答）
地形 ・地質	⑰ 京田辺市では地盤沈下の測定はない、とあるが京田辺市では地すべり地が多くある。災害地名という本にもっている。	地すべり地形については対象事業実施区域には分布していない。
地形 ・地質	⑱ <u>対象事業実施区域は礫層であり、また、周辺に活断層や地すべり地がある中で焼却施設を建設して問題ないのか。</u>	礫層であることと地すべり地との直接的な関係はない。ただし、京都府で対象事業実施区域は、土砂災害警戒区域として指定されている。このため、開発の際には法令に基づいて安全な施設を整備する予定である。なお、対象事業実施区域内には活断層は通っていない。
土壌	⑲ <u>大気質の調査地点で、土壌汚染の調査は行わないのか。また、大気質の調査地点について、今後、長期間稼働することも考え、2～4kmの地点について調査すべきではないか。</u>	環境大気質の調査地点では土壌の調査は行わないが、対象事業実施区域内について土壌汚染に関する地歴調査を行うこととしている。 大気質の調査地点について検討するが、常時観測所が2～3kmの地点にあり、観測所のデータの利用も含めた整理を検討する。
土壌	⑳ <u>土壌のダイオキシン類についての調査報告を見ると、基準よりは低いですが、地点や年によって濃度が高い地点もある。このことをどのように考えているか。</u>	土壌については、既存資料での整理を行うこととしている。周辺の土壌中のダイオキシン類については、実施されている調査の経年変化を確認することが重要だと考えている。
動物	㉑ <u>甘南備山で手原川の堤防散歩中にオオタカを確認した。現状でオオタカを確認しているのか。また、猛禽類の調査地点について、3地点で1km圏内を把握すれば十分なのか。</u>	調査範囲を1kmと3地点で確認すると記載しているが、実際は猛禽類の飛翔等の行動の状況を見て、必要に応じて地点を移動する予定である。
動物 植物	㉒ <u>焼却施設の存在で、動植物や甘南備山の貴重な動植物（絶滅危惧種）が全滅する。</u>	動植物や生態系については、今後、現地調査を行うことで重要種の存在の確認等を行い、事業による影響を評価していく。
景観	㉓ <u>甘南備山から対象事業実施区域が視認できるのではないのか。</u>	配慮書段階では甘南備山からは対象事業実施区域が視認できないことを確認している。しかし、最近になって甘南備山の展望台の周辺で樹木の伐採、整理等が行われ、視認できる可能性もでてきたことから、今後の甘南備山の整備状況等も確認しながら調査を進めていく。
景観	㉔ <u>景観について、甘南備山を視認することができる新田辺駅あたりの煙突が見通せるところからの景観の調査も行っていただきたい。</u>	新田辺駅周辺は、市街化が進んでおり、建物等が多く建設されていることから、施設の煙突を眺望することが困難と考える。このため、煙突が確実に眺望として確認でき、不特定多数の人々が利用するような道路や施設を調査地点とした。
人触れ	㉕ 京田辺市は甘南備山を中心として、お正月の山のぼりをはじめ自然の散歩道として自然のふれあいを近隣の人々としても楽しんでいる。お茶、山いも、なすなど自然豊かなまちを大切に守りたい。	人と自然との触れ合いの活動の場を評価項目として選定し、現況調査、予測及び評価を行い、その結果を準備書でお示しする。

住民等意見	事業者見解
⑥ 建設予定地の地質は田辺礫層に相当する地すべり地である。	建設予定地の地質は、地質学的には大阪層群下部の田辺累層の水取礫層で、主に砂、礫層からなっている。礫層であることと、地すべり地とは直接的な関係はない。
⑦ 活断層データベースによると調査地域に活断層は分布していないとあるが、活断層よりもっと怖いといわれるとう曲がある。 事業実施区域は、土砂災害警戒区域である。	事業実施想定区域には、断層やとう曲等は分布していない。 事業実施想定区域の一部は、土砂災害警戒区域の指定を受けている。開発の制限や許可等は必要ないが、施設の整備に当たっては、災害にも十分耐えうる安全な施設の整備に努める。
⑧ これほど多くの動植物が生育しているところは、京都府内では少なくなった。自然を大切にしてほしい。	方法書以降で、現地における詳細な調査を行い、影響の予測及び評価を行い、環境保全措置を検討する。
⑨ 掲載されている写真では、煙突は視認されないとあるが、煙突は2本見えることになる。	写真撮影は落葉期に行っているが、常緑樹と煙突位置が重なるため煙突は視認されないと評価した。 なお、方法書以降は、不特定多数の人が行き交うその他の場所からの予測・評価を行う。
⑩ 甘南備山周辺を市民と自然の触れ合いの場として残してほしい。	本事業の実施により、甘南備山のハイキングコースを改変することはない。方法書以降の手続で、人と自然との触れ合いの活動の場を評価項目として選定し、現況調査、予測及び評価を行う。

項目	住民等意見（説明会、意見募集） ※下線____は、説明会で提出された意見	事業者見解（応答）
その他	②⑥ 煙突高さが変わることで、拡散に大きな影響があるが、 <u>100mの煙突の安全性の根拠はなにか。</u>	配慮書における既存資料等を用いた大気質予測では、59mでも100mでも十分に現在の環境基準を下回っているが、100mの方がより寄与濃度が低いため、周辺住民への影響低減を考慮し、煙突高さは100mとした。
その他	②⑦ <u>現在、東部清掃工場を出入りするパッカー車は国道307号をどれくらい走るのか。また、新施設稼働後は、穂谷川清掃工場第3プラント分は10tトラックに積み替えて運ぶ計画であると聞いた。国道307号は現在でも渋滞しているが、施設が建設されるにあたり、交通状況はどのように変化するのか。</u>	枚方市側のごみは、施設規模168tの内98t分であり、2tごみ収集車で換算すると、50台程度と想定される。また、ごみ処理基本構想の中では中継施設設置の可能性について記載してあるが、現段階では未定である。今後の交通量等の調査により検討する。
その他	②⑧ <u>食品ロスの削減等でごみ減量が進んでいるおり、ごみが減っていく中での施設の計画について教えていただきたい。</u>	処理能力の168tの設定について、平成28年に両市が一般廃棄物ごみ処理基本計画を策定した中で、10年先のごみ量を推計した計画を示している。人口の減少やごみの減少が進んでいることから、稼働開始時が一番多い量となり、この値を採用している。
その他	②⑨ <u>ストーカ方式のメリット及びデメリットは何か。また、なぜストーカ方式を選択したのか。</u>	甘南備園は流動床式の16時間稼働となっており、毎日燃焼と停止があり、流動床の砂の比熱により、運転・停止が簡単に行えるため、100t以下の炉はこの方式の施設が多かったが、デメリットとして、ごみを細かく破碎する工程が必要となるほか、大量のごみを一度に投入すると、安定性が悪くなることが挙げられる。 一方、ストーカ方式は各処理ステージに分かれており、ごみを送りながら焼却し、24時間連続で稼働する。立ち上げに時間を要するが、燃やしだすと安定的で、ごみの破碎の必要もない。 今回の施設は、168tと大きな炉となるので、上記のようなメリットからストーカ方式とした。
その他	③⑩ <u>説明した内容が、ソフト面の対応か、ハード面の対応か分からない。ハード面も考えられているのか。</u>	施設整備基本計画をもとに、環境影響評価の手法等ソフト面について示している。 今後、工事計画が進んで行く中で、ハードに関する対策等も検討していく予定である。
その他	③⑪ <u>本事業の災害に関する将来予測はどのようになっているのか。将来の危険性を十分加味してはどうか。また、専門家等の予測をもとに対応したほうが良い。</u>	阪神・淡路大震災から、建築基準法が厳しくなり、焼却施設については、震度7以上の地震に耐えることが十分できる施設とするとされている。また、熊本地震の際には、周辺の焼却施設で大きな損害は発生しなかった。本施設についても、建築基準法に則り、十分な耐震性のある施設とする。
その他	③⑫ <u>配慮を要する施設（学校、保育施設等）に対しては、どう配慮すればよいのか。</u>	本事業を実施するに当たり、現況調査、予測、評価及び環境保全措置の検討を行うことにより、配慮を必要とする施設への影響をできる限り低減するよう努める。
その他	③⑬ <u>京田辺市民に十分説明をしてほしい。（ごみ処理広域化、事業計画、現況調査、影響評価等）</u>	本事業計画は、方法書にも記載しているとおり、構成市の広報等により状況をお知らせするとともに、パブリックコメントを行い、住民意見も踏まえながら事業を進めてきた。 今後も、引き続き、組合ホームページなどによる情報提供を行う。

住民等意見	事業者見解
①⑪ 煙突高さに関する意見 ・高くして、拡散希釈をはかるべき。 ・東部清掃工場と同等以上にすべき。 ・高くなると影響範囲が広がる。 ・景観の面からは低い方がよい。 ・コスト面も考えるべき。 ・差異が分かりにくい。	煙突の高さ100mと59mのいずれについても、重大な影響は生じることはないと予測されたが、100mの方が、環境影響の観点からは優位であることから、100mを採用。 また、煙突の高さが十分高くない場合には、煙突ダウンウォッシュ（ダウンドラフト）現象が発生しやすいとも言われているため、100mの方が望ましいと考えている。
①⑫ <u>ごみ広域化について、住民に十分な説明をしてください。</u>	枚方市及び京田辺市においてパブリックコメントの実施等により、市民合意の下で策定された「ごみ処理施設整備基本構想」を踏まえ、広域処理することになった。

